

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000515), 法人名 (特定非営利活動法人 生きがいセンター), 事業所名 (グループホーム 生きがい(第2ユニット)), 所在地 (小樽市朝里川温泉2丁目694番3号), 自己評価作成日 (令和3年7月2日), 評価結果市町村受理日 (令和3年9月3日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1)自然に恵まれた環境を生かし、近隣を散歩したり中庭でお茶をしながら、移り行く景色を楽しんでいます。
2)毎年、家庭菜園や花壇でお花を育てており、利用者様と一緒に日々成長を眺めながら収穫しています。
3)ゆっくりと家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとりが楽しく安心した生活が送れる様に努め、地域の方々との交流を深めながら、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでいます。
4)(現在コロナウイルス感染予防につき、外部との交流を控えております。収束した際には以前と同じ様に地域の方々との交流を深めて参ります。)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&JigvoCd=0172000515-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (令和3年7月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 運営の基本事項(環境・施設・設備・人的構成等); 朝里川近くの恵まれた自然環境にあり、運営理念の明確さ、施設設備の居住環境、介護設備の機能性と利便的配置も良い。
2) 職員の介護への姿勢・態度等; 職員は運営理念を真摯に受け止めて共有し、利用者本位な介護姿勢で臨み、日常の定例会議(業務・研修等)で資質向上に努めている。
3) 家族等の介護への好感; 通例では、家族の訪問頻度もよく、職員・利用者との関係維持に努めている。また、職員も日常の生活状況を細かく報告しており、信頼を得ている。
4) 運営推進会議開催状況; コロナ禍で、会議は内部組織のみで定例に開催。運営計画・実施状況・検討事項等は議事録で報告して、意向の把握に努めている。
5) 地域組織・機関等との連携; 平常は地域組織・機関との連携に留意した関係の維持に努めている。地域行事等との連携はコロナ禍で自粛状況にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念・独自のポリシーを作り、目の届くところに掲示し、常に確認出来る様になっています。又、定期的に社内研修で取り入れ皆で共有し、実践に繋げています。	事業理念の骨子は、利用者本位で個性を重視した、真摯な介護にある。職員は利用者ケアの情報を共有し、利用者の平安な日々を支えている。そのための地域・家族関係を大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	例年だと町内会や地域の方々にご協力を頂き、季節行事を一緒に行なったりしてふれあう機会を作っていました。コロナウイルス感染予防対策につき本年度は行っておりません。	通例は地域町内会等との協力関係を維持して、相互の行事等の協力や参加の機会として、利用者の楽しみの機会としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開き、民生委員・地域包括・消防・ご家族の方々へホームの活動を報告し、意見交換を行ない認知症の理解や支援について深めてきましたが、本年度はコロナ対策で交流を控えている為、例年程は活かせておりません。ただ、運営推進会議はホーム内で開催しているため議事録を郵送させて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度までは利用者様の生活状況や日々の取り組みなどを写真を見て頂きながらお伝えし、意見交換をしながらサービス向上に活かせる様に取り組んでおりました。又、自己評価や外部評価についても報告していましたが、本年度は、コロナ対策によりホーム内のみでの開催とさせて頂いています。議事録は関係各位に郵送させて頂いています。	コロナ禍において、職員間で業務の計画・実施・検討を重ねて、議事録等を会議関係者に送付し、意見を伺っている。また、家族には議事録と共に、生活状況等、写真を添えたお便りを送付し、運営への理解を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	窓口や電話にて相談しアドバイスを受け、協力関係を築くように取り組んでいます。	業務上の定例報告、事故報告等で、行政窓口との連携を図り、情報交換に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に開催しています。社内研修にも取り入れ職員の学ぶ機会を作り、個々の意識を高め身体拘束のないケアに取り組んでいます。	身体拘束等の委員会は定例に開催しており、指定基準が示す介護の基本に立ち、振り返りながら、結果を職員の諸会議(研修)に活かして、資質向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で学ぶ機会を作り、正しい知識を学び、職員の意識向上を図っています。又、利用者様の様子に変化がないかなど、注意をはらい防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に取り入れ学び、制度の理解を深めたり意識・知識の向上に繋がる様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項説明書の内容について説明し、不安部分などがある場合は時間をかけて説明・話し合いをし、納得して頂ける様に努めています。又、解約時にも不安の軽減に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに意見や要望を伺う様にしたり、電話などでも伺っています。又、玄関に意見箱も設けています。伺った意見・要望については職員全員で話しあい、意向に沿ったケアが出来る様に努めています。	コロナ禍にあつて、家族と利用者の面会、楽しみの機会作り等に困惑しながらも、生活状況の連絡・お便り等で、出来るだけ具体的な情報交換に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を行い意見交換したり、個別で聞いたりしています。いつでも意見を言える雰囲気や関係に努め、提案等については実現出来る様に一緒に考える様にしています。	定例の職員会議では、各職位に基づく意見交換を行い、専門職としての学び合いの機会としている。また、自由に話し合える場となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境や、各々が能力を発揮出来る様に努めています。又、個々が目標をもって資格取得に取り組んだり向上心を持って前向きに働ける様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月行っています。職員全員で知識向上を目指しています。資格取得についても推進しています。社外研修も行なっていたが、コロナ対策により本年度は中止しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問や研修先にて交流、意見交換を図り、学んだことをサービスの質の向上に努めていたが、コロナ対策により自粛している為、本年度は交流が出来ていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	ご本人様・ご家族様と面談を行い意見や要望・不安に思っていることを伺い、環境を整えるようにして、入居後も希望される生活が継続出来る様に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に意見や要望を伺い、不安を解消し希望に添った支援を行い、安心してホームの生活が送れる様に努めます。又、ご本人様も早く馴染める様に職員も考え対応する姿勢をとっています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスが何なのか、ご本人様・ご家族様から伺い把握をし、職員間で検討し協力しながら、最善の支援が提供出来る様に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かしながら、出来る事は行なって頂き、分からない事は教えて頂きながら良い関係が築ける様に努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が、入居後も以前と変わらぬ関係を継続出来るようにしています。その為、面会時・お手紙・電話にて日々の様子をお伝えしています。ご家族様からの意見・ご要望もお聞きし、相談もさせて頂きながら良いサービス提供が出来る様に努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までは友人・知人と自由に面会をして頂いていましたが、コロナ感染予防につき現在は面会を中止しています。ですが、電話の支援はさせて頂いています。ご家族様にご協力を頂いていた教室や美容室、以前から通っている病院についても自粛や職員対応とさせて頂いています。	長く続くコロナ感染状況を踏まえ、関係者の抑制を余儀なくされており、より電話等の連絡・お便りでの生活状況の報告に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の性格や相性に配慮しながらその方々に合った仲間作りを支援しています。皆様が自由に空間を利用され、孤立する事なく過ごされています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談事などがある時はいつでもご連絡頂ける様にお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中から、希望や意向を聞く様に努めています。又、困難な場合には雰囲気やしぐさ、表情などからその方の思いを汲み取れるように努めています。ご家族からも情報を得る様にもしています。	職員は、日常生活の一コマから、肌で感じる思いをくみ取れるよう、利用者の言動・習慣等を通じて意向把握に努めている。また、家族からの情報も大切に、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様やご家族様からこれまでの生活歴や趣味嗜好を伺い、ご本人らしい生活が送れる様に努めています。又、それらの情報は職員でも共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の暮らしの様子をご家族等に伺い、個々の生活リズム・心身の状態を把握し、記録に残し職員間で確認・共有しています。その中で、その方に合った力を発揮出来る様に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況、ご本人様・ご家族様からの意向を伺い、職員間でモニタリング・会議等を行いそれぞれに合った介護計画を作成しています。	定例のモニタリング会議等の記録を基に、利用者の心身の状況についての各職員の意見を介護計画に活かしている。家族の意向も含めて計画案を家族に示し、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(身体的・精神的)を個別に介護記録に記入しています。申し送りや送りノートを活用し情報の共有に努め、情報を基に介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来は協力医療機関以外の通院や送迎、美容室等の付き添いなど、ご家族が同行出来ない場合には付き添い介助等を行い柔軟に対応しています。しかし現在は色々な面で自粛制限をさせて頂いていて、通院は全て職員が対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではありますが、地域の方々(民生・消防・包括・ボランティア 他)とは最低限の情報交換をし、協力を頂きながら安全で豊かな生活が出来る様に支援しています。今後も信頼関係を継続出来る様に努めます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に移行するか、以前からの病院を継続するかはご本人様やご家族様に決めて頂いています。希望される受診・往診が行える様に支援し何かあった際にはすぐ対応して頂ける様な関係を築いています。	かかりつけ医がある場合はこれを支援している。新たに必要とする場合は、その意向を家族の判断に任せ、希望に沿うよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行い、変化があった場合には協力病院やかかりつけ医の看護師に相談し、助言を頂いたり受診したりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供しています。定期的に医療機関やご家族様と連絡をとり病状の把握をしています。退院後も安心して治療が出来る様努めています。何かの際にはすぐに相談出来る関係性を築いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	入居時にご本人様やご家族様に方針について説明しています。医療機関や他施設の方々と連携をとり、今の状態に合ったより良い支援を受けられる様に努めています。	入所時に、重度化の際の支援指針に基づく説明を行い、理解を得ている。心身の状況変化に応じて、医療機関はじめ、家族と協議して、具体的対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修に取り入れ職員がいざと言う時にきちんと対応出来るように学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っています。毎回地域の方々にも参加して頂いていましたが、コロナ禍につき不参加とさせて頂きました。水や軽食などの備蓄品も用意してあります。	防災官署の指導・助言を得ながら、想定訓練を実施。内部組織の問題意識を明確にして、役割・施設点検等に努めている。また、対応備蓄や地域組織との協力関係維持に配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性を踏まえながら、職員は言動に留意し対応しています。穏やかに生活が出来る様に努めています。職員同士でも注意し合いながら対応しています。	職員は利用者本位の介護姿勢を基本に、相互が共有して臨み、個々の生活に添いながら、見て・聴いて、応える事で、利用者の平安な生活となるよう、努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で伝えたり、AかBと言う様な自身で簡単に選択して頂ける様な声掛けをするなど、その時々で工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やペースを大切にし、その人の流れを崩さない様にしています。タイミングや時間を変えるなどして、無理のない様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装や髪型でいられる様に努めています。個々のこだわりにも沿える様に支援しています。現在はコロナ対策で自粛等している為、余りご希望には応えられていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いがある方には好みに合わせた食事や、食べやすい形状にするなど個々に合わせ提供している。行事等には特別メニューを提供し、準備や後片付けも無理のない程度に一緒に行っています。	食事が楽しいひと時となることを基本に、個々の嗜好や季節・行事に併せながら、特別メニューを工夫して提供している。また可能な限り、準備や片づけ等、好きな手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食必ず摂取量や水分量を記録しています。それぞれの状態に合わせた対応を行っています。水分摂取が苦手な方にはやり方を工夫して対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて歯磨きを行って頂いています。自身で行えない方には介助にて対応しています。又、ご希望される方には歯科往診にて口腔ケアも行っています。毎日義歯を外して頂き洗浄剤に浸けています。※コロナにつき口腔ケアは現在中止中です。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方は今の状況を維持出来る様に経過を見守ります。困難な方にはパターンを把握し時間誘導をしています。出来るだけトイレで排泄して頂ける様に支援しています。	排泄は自立支援を介護の基本に、個々の心身の状況等を共有して支援している。利用者の平均年齢87.6歳の高齢化状況だが、トイレ排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に水分を摂って頂き、体操や腹部マッサージなどを取り入れて個々の状態に合わせ対応しています。便秘の方には主治医に相談し下剤の処方をお願いしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況に合わせた入浴を提供しています。(浴槽・シャワー浴)出来るだけご本人様のペースで入浴出来る様に支援しています。	入浴支援は、個々の心身の状況や当日の気分等に合わせ、シャワー浴なども含めて、本人のペースで楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体調を把握しその時々状況に応じて休息出来る様に支援しています。夜間はゆっくりと安眠出来るように見守りを重視しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状にて用法・用量・副作用を把握しています。薬に変更があった際には申し送りをし、職員全員が周知するようにしています。又、その後の体調の変化にも気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様から生活歴や趣味や嗜好品を伺い把握します。個人で楽しめる様にお手伝いをしたり、皆さんと一緒に楽しめる様に支援しています。ホーム内の季節行事等にもお誘いし気分転換を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年だと近隣を散歩したり、行事に参加して頂いたり、ご家族様が外出や外泊などに連れて行かれることもあります。しかし、現在はコロナ対策として外出等も自粛しています。中庭の散歩などは行っています。	立地環境として、浅里川温泉溪谷の四季の変化が楽しめる。平常は藤棚が満開の中庭の散歩。時に家族等の協力を得て、外出・外泊もある。現状はコロナ禍で自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様はお金の管理は行っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の際にはいつでも電話をお掛け頂いております。ご家族様や友人からの電話にも直接お話しをさせて頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りつけや利用者様の作品・写真などが飾られており、温かい雰囲気・空間作りを心掛けています。又、湿度・温度などの調整を行う快適に過ごして頂ける様に努めています。	リビング・食堂を中心に、居室が囲み、介護機能設備等が機能的な配置で、利便性の高い共用空間となっている。季節や行事等に合わせた飾りつけに工夫を施し、温かな雰囲気を醸している。また温・湿・暖等の快適な調整に努めた住まい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室ではゆっくりと自分の好きな時間を過ごして頂き、フロアでは気の合う仲間と一緒にお話しをされたり、歌を唄われたりなどしながら、それぞれが思い思いの時間を過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から慣れ親しんだ物、馴染みのある物をお持ち頂いたり、好きな写真や物を飾って頂くことで、今まで通り安心して心地よく生活が出来る様に支援しています。	居室づくりは、家族等の協力が大切と思われる。各居室は、利用者の思い出の写真や飾り物・備品(ソファ・椅子等)等を配置して、自宅のような雰囲気づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレなどには表札や目印をつけ分かりやすくしています。それぞれの出来る事や出来ない事を把握し、苦手な部分は職員や仲間と一緒にやる事で自信を持って頂ける様に、自立に向けた支援を行っています。		